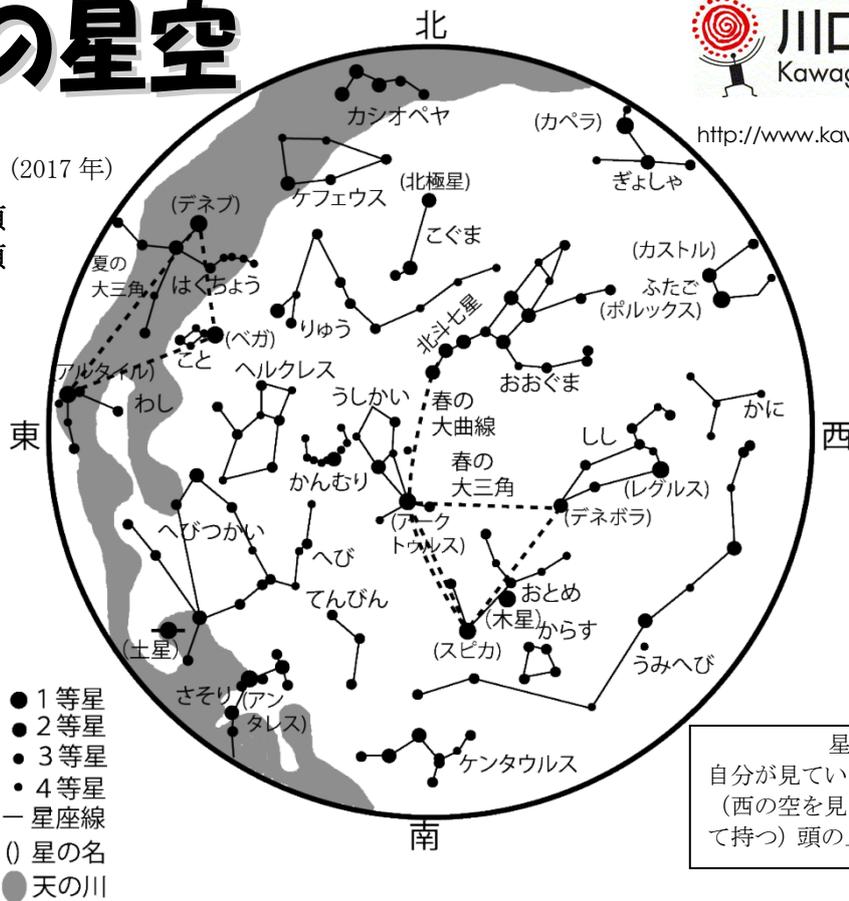


# 今月の星空

6月 (2017年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



星図の見方  
自分が見ている方向を下にして、  
(西の空を見るときは西を下にして  
持つ) 頭の上にかざして見ます。

- 月 齢    ● 上弦 1 日、○ 満月 9 日、◐ 下弦 17 日、● 新月 24 日
- 惑星情報    金星 明け方 東            (うお座 → おひつじ座 → おうし座 -4 等級)
- 木星 夕方 南            (おとめ座 -2 等級)
- 土星 夕方 南東 (下旬) (いて座 → へびつかい座 0 等級)

## ☆ 今年最小の満月 (9 日)

地球の周りを回る月の軌道は楕円になっていて、地球と月の距離はいつも変化しています。そのため、月の見かけの大きさも変わります。今回は、地球から見て月が最も遠ざかる時に満月になるため、今年最も小さく見られます。ちなみに今年最大の満月は 12 月 4 日で、見かけの大きさは今回よりも 1 割ほど大きくなります。

## ☆ 土星が衝 (15 日)

右の図のように、土星が地球から見て太陽と反対側にくる「衝(しょう)」となるため、一晩中見られ、観望好機となります。近くには、赤い色の 1 等星アンタレスが見えています。

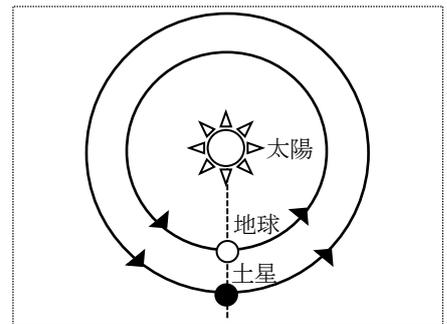


図 土星が衝 (2017 年 6 月 15 日)

望遠鏡を使うと、土星には美しい環があることが分かります。環の傾きは約 15 年周期で大きくなったり小さくなったりしていて、今年はその傾きが最も大きいので、観察に適しています。科学館の夜間観測会では 6 月 24 日に土星を観測する予定です。

## ☆ 土星探査機「カッシーニ」

現在、土星探査機「カッシーニ」が土星の周りを回っています。この探査機は、衛星「タイタン」の表面に液体メタンの湖や川があることや、衛星「エンケラドゥス」の地下に海があり、その表面から塩分を含んだ水を噴き出していることなどを発見しました。このことから、これらの衛星には生命が存在しているかもしれないと考えられるようになりました。

13 年間にわたって活躍してきた「カッシーニ」の探査は終わりが近づいてきています。今年 4 月から、「グランドフィナーレ」と名付けられたミッションで、土星本体と環の間に入る軌道回りを、土星の大気を調べたり、環に近づいて詳細な画像を撮影したりしています。今年 9 月 15 日に土星の大気中へ突入し、任務を完了する予定です。